



加工したアルミ素材の部品

個の力を高めた部品加工で 顧客の信頼に応える

有限会社 古川製作所

事業内容と沿革

取引先のかゆい所に 手が届く存在に

昭和58年に大阪府門真市内で創業、機械部品の切削加工全般を手がけている。当初は大手電機メーカー向けの部品加工が多かったが、産業構造の変化に伴い、現在は医療機器、製薬関連装置など幅広い産業機械向けの部品加工を行っている。加工する部品は一品生産が多く、図面がない部品の加工を依頼されることもしばしばあるが、要望に応じて高精度、短納期で部品を仕上げ信頼を獲得している。

古川日出男社長は「顧客が困っていることを解決する。かゆい所に手が届く存在でありたい」という方針を打ち出す。その目標を実現するためには「苦手なものをなくし、すべてを得意にするしかない」とし、長年の経験で蓄積したノウハウを生かして、納期、コストなどあらゆる面でお客様の役に立つことを目指している。従業員5名と規模は小さいながらも、その分小回りが利くという長所を伸ばしていく考え。

加工する素材も問わない。鉄、アルミをはじめチタンやタングステン、樹脂など難削材であっても注文に応じる。設備の充実で加工できる素材、部品の幅を広げて能力を高めている。

強み

経験をもとに加工ノウハウ蓄積 設備も独自化

金属加工に関する豊富なノウハウが強み。古川社長は「創業者の父親の横で機械に触っていた若い頃からの知識、経験の積み重ねで自然と加工に関するノウハウが身についた」と話す。例えば刃物の性能を調べるために、さまざまな刃物を使って加工を試してみたことがある。高価な新製品も含めて試してみたが、結果は「価格の安い刃物でも仕上がりは変わらなかった」という。もちろん送り速度などの切削条件を熟知しているからこそできる技である。工場2階の執務スペースにいても「1階で加工を行っている際の工作機械の音を聞くだけでうまくできているかどうか分かる」という古川社長の経験が会社の支えとなっている。従業員にも音と加工の出来を意識するよう指導している。

加工ノウハウを最大限に発揮するため、狭い工場に並ぶ工作機械も独自の仕様になっている。マシニングセンター(MC)、旋盤、中小企業庁の「ものづくり補助金」を得て導入したばかりのNC(数値制御)フライス盤のいずれも使いやすいようメーカーに細かい設定を依頼した。指定した仕様を工作機械メーカーが同業他社に販売するケースもあるが、「加工そのものがまねられるわけではない」と意に介していない。



新たに導入したNCフライス盤



自社仕様のマシニングセンター

古川製作所本社工場

- 企画・提案
- 試作・受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンラインワン

カドマイスターの取り組み

社員が自ら考える会社に 各人の目的明確化

古川社長は従業員に対し「会社のために働く必要はない」と口にし、個の力を重視したユニークな経営を実践する。従業員が「自分で考える力を身につけることが第一」とし、目標、目的を持って仕事に向かうよう指導する。自分で考えることさえできれば、たとえ経験が乏しくても技術、ノウハウは必ず身につくと確信しているからだ。目標はあくまで会社としてではなく、個人としてのもの。個人の生活を豊かにするために何をすべきかを優先させる。まず各人が自分の目標、目的を書き出させ、それができれば給与面でのプラスポイントとなる。結果も自己申告し、各人が目的に沿って行動できたかどうかを基準に古川社長が評価する。給与はすべて年功ではなく評価に応じて配分する。各人がそれぞれの目標に向かって独立した仕事を行っているが、各工程の確認は別の人が行うなど会社としての相互扶助の精神も確保している。

今後の展開

適正な仕事量を確保 安定成長の土台築く

これまで3年ごとに経営計画を策定してきた。リーマン・ショック後の売上高激減から回復を図る中で、取引先の再構築も行いながら経営体質の安定化を図ってきた。売上高は現在約1億円。古川社長は「単純に売上高を増やせばいいとは思っていない」とし、会社の能力に応じて適正な利益を安定して生み出せる仕事量と中身の確保を重視している。例えば今、売上高を倍の2億円にしたところで利益率は低下してしまうというわけだ。社内の体制を見れば、独自の人材活用法が定着し、各人のスキルが高まってきた。単に加工の技術だけでなく、取引先との関係構築という面でも成果を上げている。設備の充実もあって、過去にはできなかった加工もできるようになった。次の3年の計画策定はまだこれからではあるが、安定成長路線の土台は確実に固まりつつあり、古川社長の頭の中では「今の取り組みをさらにワンステップ引き上げる」ことが目標に据えられている。

取引先のニーズをつかみ応える
ために企業努力を惜しみません



代表取締役
古川 日出男さん

創業以来30年以上にわたり、設備機械部品加工、省力化機器部品加工、カム加工の技術を磨き続けてきました。中小企業として大手企業にはない何かを常に考え続けてきた結果、お客さまが何を求めているか、何を探しているかをキャッチし、我々がお役に立つことが大切だという答えに行き着きました。独自の人材活用法で従業員のスキルを高め、高精度加工、コスト合理化、短納期といったお客さまの要求に応えられるよう努力を続けています。今後もお客さまのニーズに合った製品を提供するためにいっそうの努力を行っていきます。

主な事業内容

設備機械部品製造全般

主な取引先(納入先)

機械修理メーカーおよび産業機器・省力化機械メーカー

【住 所】〒571-0017 大阪府門真市四宮4-5-39
【T E L】072-882-7182
【F A X】072-882-9005
【創 業】昭和58年10月【設 立】昭和62年5月
【資本金】300万円 【従業員】5名

<http://www.furukawa-ss.com/>

